

みわ由美 紹介 DVD 紙上ダイジェスト

みわ由美の紹介 DVD が完成しました。今回は、DVD の中身をダイジェストで紹介します。

「戦争と貧乏をなくすのが共産党」

父親が結核で倒れ、生活が苦しかった幼少時、励まし、援助してくれたのが日本共産党の人たちでした。「戦争と貧乏をなくすのが共産党」という父の言葉が、生き方の原点です。

高校進学後、剣道・茶道・華道と文武に挑戦(写真左)。同年の女子生徒が森永ヒ素ミルク事件の後遺症を苦しめた、自殺未遂事件に衝撃を受け、自分の通う高校でその女生徒を呼び全校集会を開きました。その様子は新聞でも報道され(写真右)、人命よりも企業の利益が優先される社会の在り方に大きな怒りを感じました。



1973年 6/27付 朝日新聞



走る政治家・みわ由美 「一人でも苦しむ人を救いたい」

大学へ進学し、19歳で日本共産党へ入党。卒業後は大阪の電機会社へ就職。結婚し3児の母となってからも、保育の充実などの運動の先頭に立ってきました。夫の転勤で松戸に転居してからも、女性運動、学童保育の運動に携わりました。

93年の衆院選で、衆院選への出馬要請を受け、「ひとりでも苦しむ人を救いたい」と決意。その選挙では当選できませんでしたが、99年の県議選で当選を果たしました。

県議となってからは、地域の様々な要求の実現と、県政の刷新のために全力で取り組んできました。平田市議が現役の教員時代、毎年学級数が変わる「ボーダーライン学年」の解消のために議会で質問し、学級定数の弾力運用に道を開くことができました。

3期目の任期中に起きた東日本大震災では、市内の避難所での聞き取り活動や被害状況の現地調査(写真上)に走りました。直後の県議選で落選して議席を失ってからも、放射線量の測定・除染に延べ 3000 人の市民と一緒に取り組み(写真下)、行政の責任による除染や、県内初となる甲状腺エコー検査への補助を実現することができました。



松戸から、再び県議会へ

県議として12年間、皆さんと一緒に、多くの課題に取り組んできました。

この4年間は、前回落選した悔しさをバネに少しでもお役に立てるようにと、これまでも増して全力で頑張ってきました。本当にありがとうございました。

安倍政権の暴走ストップと、憲法と命輝く県政へ頑張ります。皆さん、どうかよろしくお祈りします。



新京成線の駅無人化反対の運動



ハツ場ダムの建設現場を現地調査

4月12日の県議選でみわ由美候補への支持を広げて紹介してください。

お名前	ご住所	お電話	ご関係

紹介していただいた方のお名前() お電話()

お電話(047-311-5231)いただければ伺います。ファックス(047-311-5233)でも結構です。